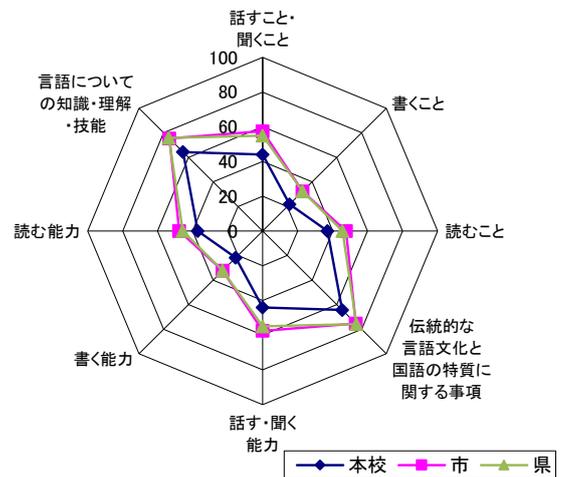


# 宇都宮市立宝木小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	44.0	57.5	54.9
	書くこと	21.7	32.3	32.3
	読むこと	37.1	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.3	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	44.0	57.5	54.9
	書く能力	21.7	32.3	32.3
	読む能力	37.1	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	64.3	75.3	75.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、県と比べて低い。</p> <p>●話すこと・聞くことの観点問題ではあるが、文章を読んで問いに答える形式であるので、文の前後関係から、正答を導き出すことができていない。</p> <p>●記述で答えさせる問題では、無回答の児童が27.3%と学年全体の1/4以上の児童が該当し、県や市の12%台の2倍以上となっている。</p>	<p>・話し合い活動については、司会の役割および進行、正しい意見発表の仕方についての指導が足りていないことをふまえ、国語科の授業だけでなく、学級活動や朝および帰りの会での活動を大切に行う。</p> <p>・ステップアップ学習やフォローアップシートでの振り返り学習において、記述学習に抵抗がなくなるよう取り組ませる。</p>
書くこと	<p>平均正答率は、県と比べて低い。</p> <p>●「資料」、「メモ」、「報告レポート」の3つをあわせて読み、正しい答えを選んだり、あてはめたりすることができていない。</p> <p>●記述で答えさせる問題(2)(3)では、無回答の児童が(2)で45.6%、(3)でも44.7%と多くの児童が該当している。難解な問題ではあるが、正しい答えのヒントがどこに書いてあるかまでは、分かった児童も多い。</p>	<p>・設問が長いと混乱してしまうことが考えられる。「問題の中心はどこで、何を聞かれているのか」をしっかりと確認する学習を意識して行いたい。また、児童自身による「報告レポート作り」についても、取り組ませていく。</p> <p>・ステップアップ学習やフォローアップシートでの振り返り学習において、記述学習に抵抗がなくなるよう取り組ませる。そこで、求められている形で答えることをしっかりと確認させる。</p>
読むこと	<p>平均正答率は、県と比べて低い。</p> <p>○「登場人物の気持ちを想像して読む」問題には、76.7%の児童が正答しており、授業での読解や読み聞かせ等の読書活動が成果の一因として考えられる。</p> <p>●短答式、記述式での問いになると正答率が低くなる。ここでも、無回答の割合が極端に多い。</p>	<p>・現在取り組んでいる読書活動については、取り組みを継続し、感想等を短文でまとめさせる活動を加えていく。</p> <p>・「読むこと」についても、ステップアップ学習やフォローアップシートでの振り返り学習において、記述学習に抵抗がなくなるよう取り組ませる。そこで、求められている形(書き抜くのか語尾を変えて書くのか)で答えることをしっかりと確認させる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>平均正答率は、他の領域と比べると高い。</p> <p>○国語辞典の使い方について、県平均をわずかではあるが上回っている。図書ワゴンを活用し、国語辞典をすぐ手に取れるような学習環境を整えていることが一因と考えられる。</p> <p>○漢字の「読み」については、比較的良好な正答率である。読書活動や朝の学習の成果と考えられる。</p> <p>●「こうつう」を漢字に直して書いたり、「きって」をローマ字に直して書いたりすることに課題が見られる。</p>	<p>・同じ読みで、間違えた漢字を書く児童が多数いる。漢字の成り立ちの意味や似た漢字との比較で学習させるよう、工夫を凝らした学習を取り入れる。</p> <p>・難解な(促音便や撥音便が含まれるもの)ローマ字について、掲示物を作成し、日頃から目に触れるようにさせたり、パソコンを使った調べ学習において、ローマ字入力を意識的に行わせ、ローマ字に慣れ親しませる。</p>